

# 第10回 高校生の

# 神楽甲子園 7/24(土)・25(日) が開催されました!

昨年、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて中止となった「高校生の神楽甲子園」が2年ぶりに開催され、広島県、鳥取県、島根県、静岡県、大分県から15校が参加しました。コロナ禍で行われた今回は、例年高校生が行っていた大会運営を神楽公演に携わっているイベント会社に委託して、2,000人収容の会場への入場を半分以下の700人に制限するなど、感染対策を実施。来場できなかった方に向けて、初めてYouTubeでの動画配信も行いました。昨年、出場することができなかった先輩たちの思いも胸に、参加した生徒たちは神楽の聖地「神楽ドーム」で舞うことの喜びをかみしめていました。



**昨**年は公演もほとんどなくなり、学校の文化祭も中止。披露する場もなく、目指すものもない中、部員たちの中に「何のために練習するのか?」という気持ちが大きくなり、練習に集まらなくなった時期がありました。自分自身も少ない人数しか集まらない中でどんな練習をすればいいのか分からなくなり、余裕がなくなって空回りしていたと思います。良い方向に向き出したのは、「神楽甲子園」が開催されると知った3月ごろから。部員一人一人と話をし、部のこれからについて一緒に考えました。神楽が好きなのはみんな同じ。「日藝選奨」を一つの目標にして活動を始めてから、部員全員が同じ方向を向くようになりました。一つの目標に向かって全員が全力で取り組めたことは、一人一人の成長につながったと思います。私自身も、何かに燃え尽きるほど本気で取り組んだという経験は初めて。思い悩んだ時期があったからこそ、大きな経験ができたのだと思います。私たちにとって忘れられない夏になりました。

高校生  
の神楽  
甲子園  
に  
出演して  
「生徒」「先生」  
それぞれが  
思うこと

甲子園の開催を信じ、コロナ禍でも練習を続けてきた吉田高校神楽部。これまでずっと目標にしていた「日藝選奨」を受賞し、部員たちにとって忘れられない大会になりました。昨年中止になってしまった大会から1年間。どんな思いで活動してきたのか、部長と顧問の先生にお話を伺いました。



部長  
しもだ ひびき  
下田響己さん(3年生)



記念すべき10回目のポスターも下田さんが担当。熱い思いを形にしたと立候補しました。

〈日藝選奨〉  
市と連携協定を締結している日本大学芸術学部から、最も印象に残った高校に対して贈られる賞



顧問  
かねみつ たかなお  
兼光 孝直先生

**私**が顧問になって4年間、目標がない時期というのは一度もありませんでした。常に公演があり、公演依頼も多数ある部活。コロナ禍で披露できる場が無いことに、生徒たちのモチベーションが下がっていくのを感じていました。今年の1月ごろはみんなの心がバラバラの状態。生徒たちでなんとか解決してほしいと思い、まずは3年生で話をしようというアドバイスをしました。もともと目標があれば頑張れる生徒たち。ヒントを投げかけると、自分たちで考えて動き始めました。その後は空気が変わり、一気に一体感が生まれました。大会当日にはOB6人が駆けつけてくれ、裏方としてサポート。部に代々受け継がれている「助け合いの精神」をひしひしと感じました。参加した全員が大きく成長した大会になったと思います。

 静岡県立遠江総合高等学校 天宮神社十二段舞楽九番「陵王」	 広島県立可部高等学校 「紅葉狩」	 島根県立浜田商業高等学校 「岩戸」	 広島県立西城紫水高等学校 「曲舞」
 益田東高等学校 「天神鬼」	 大分県立由布高等学校 「真見城」	 島根県立飯南高等学校 「鍾馗」	 島根県立江津高等学校 「神祇太鼓」
 広島県立加計高等学校芸北分校 「弓八幡」	 鳥取県立日野高等学校 荒神神楽「大蛇」	 島根県立矢上高等学校 「子持山姥」	 広島新庄高等学校 「鍾馗」
 島根県立瀬摩高等学校 「八幡」	 島根県立浜田養護学校 「大蛇」	 広島県立吉田高等学校 「滝夜叉姫」	

問工商観光課 観光振興係 ☎お太助フォン 47-4024